

2015年度言語文化研究会活動中間報告

4月：新入生歓迎行事

6月：・言語文化研究会総会

- ・森博英先生による講演会「Does Practice Make Perfect? —英語教育や英語学習の俗説にいどむ第二言語習得研究—」

〈新入生歓迎行事の企画・参加を通して〉言語文化研究会学生運営委員感想

- ・言語文化研究会では、新入生歓迎行事として江戸東京博物館・浅草見学を行いました。江戸時代と現在の衣食住に関することばの変遷をたどることで、母語話者の多くが自国に住む日本でも、ことばは時を経て変化していくのだと実感しました。また、今年は初めて学生委員が主体となつての実施ということで、研究会のメンバーはもちろん、先生方やオフィスの方々に支えて頂き、無事に終えることができました。今回の活動を通し、残りの言語科学専攻で過ごす時間を大切にしたいと改めて思いました。また、言語文化研究会が、ことばに関する活動を通して、さらに有意義な時間を提供できる組織に成長していければと思います。
(3年 板垣葉)

- ・江戸東京博物館では江戸時代から現代までの人々の暮らしや文化を体験できた。入場口の近くにある再現された日本橋で班ごとに集合写真を撮った。最初はあまり話さなかった1年生たちがそれぞれ自己紹介をして仲良くなっていた。橋を越えた先にある江戸城と城下町の模型は双眼鏡で人形の表情や持っている物まで見ることができるので、そこで足を止める人もいた。展示物には日本語と英語、中国語、韓国語の説明文があり、それぞれの言語表記を見比べることができた。日本史で覚えた様々な出来事を振り返るとともに、長屋など再現された物を見たり触ったりして実際にどういうものか知ることができた。昼食後のグループワークでは更に理解を深めた。水上バスと徒歩で浅草寺まで移動した際には知らない言語で話す人たちも何度か見かけ、博物館の言語表記に続き少しだけ異文化を実感できた。言語関係だけでなく昔の文化を体験するなど得るものが多かった。今後もこのような機会を増やせたらと思った。

(3年 福田容子)

・江戸東京博物館に「ことば」を見つけに行くというのが今回の新入生歓迎会のテーマでした。歴史の博物館で「ことば」を見つけないというなんとも不思議なもの。しかし、目を凝らしてよく見ると案外たくさんありました。例えば、使われなくなった「ことば」です。館内には時代劇などで一度は見たことがある物が溢れています。しかし、名前が分からない物や数え方が分からない物も、展示数に比例して多くありました。そこに私達は「ことば」を見つけたのです。時代とともに変化していく物があれば、それに伴い消えてしまう「ことば」もあるということを今回の行事で知ることができました。また、ことばを見つけないだけでなく、展示物を言語化するというにも挑戦しました。自分の気になった展示に自分なりのキャッチフレーズを付けるのです。具体的な物を短いことばで表現することの難しさを、身をもって体験しました。今回私は上級生という立場で新歓行事に参加しましたが、一年生と同様にたくさん学びました。大学生活も半分過ぎたところで、「ことば」の奥深さを感じ、さらに興味が湧いてきました。一年生もこれをきっかけに「ことば」にさらに興味を持っていてほしいと思います。

（3年 磯部菜美子）

・今年は新入生を迎える行事を言語文化研究会の学生が一から考えました。どうしたら新入生に楽しんで「ことば」に触れてもらえるのかを意識しながら検討をしたので、案は出るものの実現不可能であったり、「ことば」に触れるという主旨からずれてしまったりで、形になるのに時間がかかりました。その中でできあがったのが、江戸東京博物館と浅草に行くことでした。当日は多くの新入生が参加してくれました。グループごとに博物館内を周り、研究会の方で作成したワークシートを協力しながら埋めていました。その作業で新入生同士がコミュニケーションをとってグループワークの良さを感じました。ランチ後の各グループで作成したワークシートをシェアする時間では人前で喋ることに緊張しながらも、見つけた「ことば」や考えたキャッチフレーズを発表していました。その後水上バスで浅草に移動し仲見世を通りながら、浅草から見える「ことば」を探しました。新入生がとても楽しんでいるようだったので今回の新歓行事を企画できてよかったと思います。

（3年 加藤千佳）

・言語と一口に言っても様々な切り口がありますが、日本文学という形ではない、一般社会で使われる日本語を、時代の流れに沿いながら見るという経験はこれまであまりしたことがなかったように思います。ましてや、江戸東京博物館と言語を結びつけて

考えたことは、全くと言っていいほどありませんでした。今回、ワークをする新入生を見ていて、新たな観点から物を見ることの楽しさを感じるとともに、それぞれ別の考えを持つ人と意見を戦わせることの楽しさも感じられたと思います。昨年度、今年度と言語について考える新入生歓迎行事に参加してきました。この経験を生かし、来年度も言語科学専攻ならではの新入生歓迎行事を計画できないか考えていきたいと思っています。

（2年 飯田麻優子）

- ・ 今年の新歓行事は、言語文化研究会で運営側として参加し、新一年生のための行事ではあるものの、私も学ぶことの多い行事となりました。活動を通して「言葉」に関わることを発見するテーマでしたが、江戸東京博物館と浅草寺を訪れることで、どのような「言葉」に関する発見があるのか、初めは想像が付きませんでした。しかし、実際に見学してみると、昔の物の数え方や書籍、江戸時代の店の看板など、現代には見られない言葉や文体を見ることができ、いつの時代も「言葉」が人間の生活に密着しているのだと実感しました。この行事で得た気づきや発見を、自分の教養の1つとして大切にし、今後の学習を深める材料にできれば良いと思います。

（2年 仲山可那子）

- ・ 4月に言語科学専攻に入ってきたばかりのほやほやの1年生に「言語を科学する」とはどういうことか少しでも考えてもらうきっかけとして企画したのが今回の新歓行事「江戸東京博物館 & 浅草ツアー」です。とはいえ実際1年生よりも2年生の私の方が楽しんでしまったのではないかなと思うほど、満足感溢れる1日でした。今まで博物館に好んで行ったことはありませんでしたが、「ことば」という穴から江戸～現代の生活を覗くと、時代に特有なことばや時代とともに変わりゆくことばを見つけることができました。それらはその時代の文化や生活を映し出し、時代ごとのことばの美しさを感じる体験となりました。

（2年 松本莉花子）

